

平成 23 年度 “超” を目指す軸受技術研究会報告

“超” を目指す軸受技術研究会（第 3 種，主査 森 淳暢）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数 38 名，平均出席者数は 25 名程度で，同志社大学を開催場所とし，3 回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第 34 回研究会（平成 23 年 6 月 18 日 於：同志社大学）①低相対速度下極低摩耗表面（再生軟骨と人工関節の研究）（京大 富田直秀），②円すいころ軸受の技術進展史（ジェイテクト 松山博樹），③硬質薄膜のトライボロジー特性評価とその予測方法（兵庫県立大 阿保政義）．

第 35 回研究会（平成 23 年 10 月 8 日 於：同志社大学）①境界潤滑摩擦低減に寄与する添加剤吸着層の物理化学物性評価（同志社大 平山朋子）．②減速法によるジャーナル軸受の摩擦測定と潤滑計算（大阪電通大 小笹俊博，梶木悠一朗，頼実浩一，山田晃弘，石井徳章，矢部 寛），③ACROSS に対する流体軸受利用の試み（兵庫県立大 伊勢智彦，宮武 拓，浅見敏彦，東北学院大 十合晋一）．

第 36 回研究会（平成 23 年 12 月 17 日 於：同志社大学）①ロータリー切削とテクスチャリングによる工具／切り屑間の潤滑性向上（名工大 糸魚川文宏，愛知県産業技術研究所 河田圭一，オークマ 則久孝志），②流体潤滑理論に基づくテクスチャの効果とその実験的検証（同志社大 平山朋子），③高速スラスト空気軸受の実験と最適化の検討（東海大 落合成行，橋本 巨）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年 3～4 回の研究会の開催を予定している．